

論 說

自動車交通と道路問題の一考察

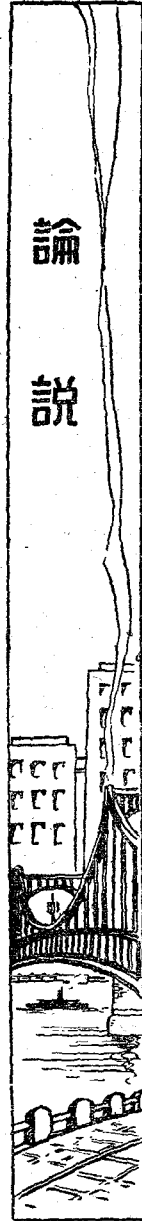
松 葉 榮 重

目 次

- 一、陸上交通機關の經濟的競争限界
- 二、各國の遠距離自動車道路の建設
- 三、自動車道路と其の沿線への影響
- 四、廣地域開發と自動車道路の必要
- 五、道路問題の將來性

以 上

廣域なる地帯内の道路について考察する。今日までの道路問題は多くは都市を中心に考へられたやうである。しかし今



後は國防上その他の見地から都市の様相は變ると思ふ。工業都市、産業都市等はその型態を變へ所謂集中から分散へとの方向をとるであらう。しかしして都市を中心の局部的、地方的であつた道路問題は廣域地帯の開闢、發展を目標とする全體、總體的立場からの道路問題となるであらうと思ふ。この意味から最近頃に發達した自動車前提とする自動車道路の問題について考察する。即ち自動車と鐵道との經濟的競争限界の延長とか、各國の自動車道路の築造とか、自動車道路の其の沿線への影響とが、自動車の特質とか等から廣域に互る自動車道路の建設の必要なることを述べることにする。

一、陸上交通機關の經濟的競争限界

一八八五年獨逸のゴットリプ・ダイムラーがガソリン自動車を考案して以來、僅に五六十年の歲月を経したるにすぎないが、その發達と進歩とは實に目覺しきものがあり、長く陸上交通の王座を占め交通界に君臨して居る鐵道に代替し或ひは之を凌駕せんとするの傾向を示すかの如くであつた。しかしして兩交通機關は同じ活動分野にて互に鑄を削り相互に熾烈なる競争を展開したものである。かく兩交通機關が争ふことは一國の交通機關の健全なる發達の上に支障を招來するものであるとの見解から、いづれの國も鐵道と自動車との問題に關して調査研究をすゝめた。英國の運送委員會は鐵道も自動車も共に重要な交通機關である。共存すべきものである。しかしして自動車は鐵道の補助機關として協力してその機能を發揮すべきものであるとの見解を示し、加奈陀の加奈陀ローヤル委員會は鐵道は五十哩以上の旅客、貨物の運送の任に、當り、自動車は旅客、貨物の集散の任務をなすべきとなし、又米國の洲際委員會は有害なる競争を避け、妥當的運賃限界にて兩者が協調し運賃の安定をはかつて經濟界の發展を企圖すべきとなし、更に獨逸では獨逸國貨物自動車營業組合

が中心となり、バスは近距離、中距離に於て鐵道に優り、貨物自動車は近距離に於て鐵道より遙かに有利であるから、バスは近距離、中距離に、貨物自動車は近距離に、鐵道は遠距離に於て夫々運送に従事すべきであるとの見解である。しかしその他の國々も大體同様である。從て之等を通して一般に自動車は近距離交通に、鐵道は遠距離交通に夫々交通を配分して活動すべしとの結論の如く、又國によつては法を以て規定したところもある。しかしてかゝる見解の生じたる所以のものは自動車は近距離に、鐵道が遠距離に有利であり、換言すれば自動車が鐵道と經濟的に競争し得る距離は近距離である。それ以上の距離となれば自動車は鐵道に及ばない。經濟的に競争し得ないといふことからである。かくして一般に自動車は都市内交通、都市近郊間交通、鐵道驛、港灣の集散交通等、都市、港灣を中心に近距離を活動すべき交通機關の如く考へられてきた。しかし自動車は都市内交通、都市近郊間交通、鐵道、港灣の貨客集散交通等の近距離交通のみに從事し、この範圍に踰越して、中距離、遠距離交通に活動することは不可能であらうか、中距離、遠距離への適應性はないものであらうか。自動車が近距離交通に經濟的にして遠距離交通に不利なりとの考察は自動車運送に要する經費、速度、運賃等から割出されたものであらう。故に若し自動車そのものゝ機械及構造上の改良と、經費の低減と、豊富、低廉なる燃料と更に道路の改良即ち道路の高級化とが伴へば鐵道への自動車の經濟的競争限界は延長さるゝものであらう。常に近距離交通に停留することなく、中距離、遠距離へと移行する事が可能となるのであらう。實際問題として自動車は現在、中距離、遠距離への交通を行ないつゝあるのではなからうか。

二、各國の遠距離自動車道路の建設

最近いづれの國も遠距離に互る道路の建設と延長とに専心しつゝある。獨逸を縦横に貫通し其の距離七千杆に及ぶといふヒットラー自動車道路の如き、又ムツソリニーの農業道路、アメリカの道路の如きがその適例である。しかして之等の道路の總ては自動車の往來を前提とし、自動車の機能と關連して築造されてゐるのである。更にソ聯邦の最近の道路を見るに國營農場、集團農場、重工業地帯への道路の開設、又遠隔、僻地帯の都市の新設、新工業中心地の建設等のための道路の築造等道路方面への關心は實に顯著なるものがある。例へばレナ河沿岸のカチウグ港に至る自動車道路の如きは數百杆に及んでゐる。最も道路網の發達した地方はモスコ地方で、〇〇〇平方杆の面積に八、〇〇〇杆の改築道路を有し、チウバシユ共和國が七〇〇杆、クリミヤ共和國が六〇〇杆、西部地方及び白露地方が五三〇杆で、一九三一年の調査によれば自動車道路の總延長杆は一、三〇〇、〇〇〇杆で、その内四一、〇〇〇杆が高級鋪裝化である。又蒙古及び支那(新疆)との國境にも新しい國道を建設し又建設中のものがある。第三次五年計畫によつてナゼエチンスキ・ザウオド——エリザロゾオ(オビ河岸)——ツルハリスク——イガルカ(エニセイ河岸)——ジヨルドン(レナ河岸)——ウエルホヤンスクを経てギジガ(オホツク海)に至る全長五、〇〇〇杆に互る自動車及び馬車道路を建設せんとしつゝある。かかる遠距離に互る自動車道路の建設は自動車が近距離交通に局限せらるゝものではなく中距離、遠距離にも適用さるべき交通機關であることを物語るものではなからうか。今日まで資源の開発、産業の振興等の動脈であり、中樞機關であつたものは鐵道交通であつた。しかして鐵道交通が大量貨物の運送の上に又遠距離運送の上に絶對的優秀性を有することは今日に於ても否定することは出来ないであらうが、之と並行して又異つたる角度に於て自動車交通が中距離、遠距離運送へと乗り出しつゝあるのではなからうか。鐵道は常に線の支配に束縛され其の活動は制限的である。しかるに自動車は陸上

に於て道路の存するところはいかなるところでもその走行は自由で平面的である。しかもその速力に於て、輸送能力に於て、又安全性に於て次第に改良と進歩とが加はり、特に速力の如きは躍進的進歩で近代交通機關としては十分なる資格を有するものである。かく見きたるときは將來への陸上交通機關としての自動車は鐵道への補助的、培養的交通機關たるの意味を有すると同時に鐵道と並立し存在すべき遠距離交通機關たるの性質を有するものとなりつゝあるものゝ如くである。しかしてもとより遠距離のみに活動すべきものではなく、近距離、中距離、遠距離のいづれにも有能なる交通機關として其の機能を發揮し得べきものと思はれる。

三、自動車道路と其の沿線への影響

自動車道路の建設と同時にその沿線について見るに、恰も河川の流域がその一帯を沃野と化し文化を向上せしむるが如く、自動車路線の沿線地帯も亦これを發達隆昌ならしむるものである。會てアダム・スミスが「市場の擴張は善良なる道路、運河並に舟行し得べき河川によつて大いに進めらるゝものである。此等の水陸交通路は僻遠の未開地を拓きて之を消費地たる都會と联接せしめ、廣大なる土地の開發進歩を可能ならしめる故に水陸交通路の發達は正に一切の進歩中の最大なるものである」と述べてゐるが、自動車道路も亦同様にして自動車道路を建設すればその距離に互つて之を價值づけるものである。アメリカの奥地は自動車道の發達以前には多量の豊富なる農産物を有してゐたが、何等その價值を生ぜしめることが出来なかつたが、自動車道路の開設と同時に豊富なる農産物は遠く四方に配給せられ又局部的に限られてゐたものも廣地域に運送せられ、僻陬の地に孤立せし人々も都會と交流してその道路沿線は著しき發達を見ることゝなつた。鐵

道交通の開設に於てもその沿線は繁榮するが、主として停車場近接の地帯にして沿線の總てに互つての發達繁榮は望み薄である。港灣に於ても港灣に近き一帯は隆昌となるも長き距離に互つては困難である。しかるに之が自動車道路であればその路線に沿ふ平野の開拓、山林の伐採、鑛山の開鑿等となり、人的、物的の往來が旺となり、沿線の總てに互つての發達が可能となる。

故にいづれの國も自動車道路の建設には努力しつゝあるが、特に最近農業國より工業國へ、更に國土全體の開發のため自然を征服し、克服し、人間文化の上には何等寄與するところがないとまで云はれた北氷洋までも開發せんとしてゐるソ聯邦の自動車道路の促進を見るに自動車道路建設を目標として一九二七年以來アフトドルなる組合が出来、この組合員は國內のあらゆる方向に支部を設け、特に殷賑産業地帯に主要なる中心を置いて自動車運送の重要性を宣傳し又普及し、更に自動車道路の改築、建設に努力しつゝある。

アフトドルの組合によつて行なはるゝ仕事の一つは自動車競走である。これは一九三三年に創設されたるもので、競走コースはモスコイ——カラクム——モスコイで、参加自動車はゴルキー工場、スターリン工場等よりの優秀なる國産自動車である。コースは十九の異つた共和國と地方を通過するもので先づチュバアシ共和国の高級道路、タルタル及び中央ボルガ地方の粗惡なる谿谷を通り、カザクスタンの沙漠及び半沙漠地帯を横切り、ウズベクスタス、タドシクスタン、トルコメニヤ地方の炎熱燒くが如き地帯を通過し、沙地と鹽澤多きカラクマの人跡未踏といはれる沙漠地帯を通り、アゼルバイヂアンの山嶽地帯、チヨンバルスキーの山峽地帯を走破して、ヂョーヂヤの首都チフリスを通過して、ヂョーヂヤ軍用道路に沿ひ、コーカサスの北方に出で、そこから再びモスコイに歸るもので、延長杆は一〇、〇〇〇杆で競走に要する

日数は八七日である。この競走自動車が行中沿道の人々の歓迎振りを見るに、中央アヂヤはチエルナイヤエフからタンケントに至る二十八軒の沿道には三五〇、〇〇〇人の農民が二列にやらんで自動車の通過する毎に花、メロン、葡萄、桃、林檎等を投げ、又ギシドバンスク地方では三十軒に互る道路に毛氈、シヨール、葡萄房、メロン等で裝飾した一一八のアーチを作つてその壯途を賑はし、ホレアン地方では塵埃の自動車に有害なることを聞知して道路上に絶へず撒水するのである。この地方に於ける水は最も尊くその重量は金に等しいとまでいはれる高價なるものである。その水を散布するのであるから如何に歓迎の熱意の大なるかを知ることが出来るのである。かくの如く自動車運送と自動車道路の發達と改良とは非常なる熱心と努力とが拂はれつゝあるが、かゝる現象は自動車道路の建設がその沿線一帯の發達と隆昌とを招來するの要因となるからであらう。

四、廣地域開發と自動車道路の必要

以上はソ聯邦の自動車道路についてであるが、今日に於ける日本の活動分野は非常に廣域となつた。この廣域に於いて人的、物的の往來移動をなすには交通機關の完備が先づ必要であり又先驅をなすものである。會て明治維新の際に國內が驟然たるの折りに之を平靜たらしめ國運を隆昌にせしむるには東西の交通を圓滑たらしむるにありとなし、先づ江戸と京都との間の鐵道の開通に其の一步を入れたものである。又獨逸の各聯邦の統一は之をなすに思想的には困難であらうが、鐵道交通の連絡を以ては可能であらうと鐵道の建設に重點を置いたものと云はれてゐる。廣地域の整備、統一、更に建設、發展には交通機關の完備を企圖すべきである。交通機關の完備を以て人的、物的の往來移動は容易となり、政治的、

經濟的の活動は圓滑となるのである。人的往來が容易に又旺んとなれば自ら地方的、局部的の色彩は離脱され、和平、融和化するものである。又物的方面にても物資が地方的に局部的に停留することなく全體的となり廣地域全面の發展と進歩とを招來するものである。故に交通機關の充實と完備とは企圖すべき先決問題であらう。しかして陸上交通としては先づ自動車道路の築造と延長とが必要であらう。曾ての日本は自動車工業の立ち遅れと、資材及び燃料の不足とから英、米、獨、佛等に比較すれば甚だ劣るものがあつた。燃料たる石油の如きは日本の全需要量の九割までは外國の供給に依存し、僅に一割程度を産するにすぎなかつた。ゴムの如きは總てを外國にあはぐの外はなかつた。しかるに今日に於てはゴムの供給は勿論、石油の如きも多分に自由に豊富に求むることが可能となるのであらう。之等の豊富なる燃料と資材とを以てすれば日本の自動車交通はその前途の實に洋々たるものがあるであらう。獨逸に於て發生したる自動車がアメリカに於て著しき發達を見たる所以のものは領土の廣大なること其他種々の理由はあるであらうが、石油資源に多分に恵まれてゐたことがその發達への重要な要素ではなかつたであらうか。更に自動車は鐵道に比して既に述べたるが如きこと以外に、直接輸送、隨的運轉、包装の簡易、急勾配の走行等の種々なる長所を有するが故に、之と密接不可分の關係にある道路の完備と相結ぶ時は其の效用は甚大なるものがあらうと思はれる。故に廣地域への交通機關としては自動車交通の利用と遠距離自動車道路の築造とか廣地域開發上への重要な要素となり、又其の必要が強調されるべきものであると思ふ。

五、道路問題の將來性

以上を通して自動車の將來性と之に伴ふ遠距離自動車道路の必要とを述べたが、由來今日までの道路問題といふと多く

は都市内及び都市近郊交通を前提としての道路問題の如くであつた。即ち都市内及び都市近郊の交通量の増大より生ずる種々なる障害を除去するための道路幅員の擴大とか、重量貨物の運送に耐へ得る道路の高級舗装化等の問題の如くであつた。主として都市を中心とする道路問題に限られてゐたるの傾きがなきにしもあらずであつた。しかし今後の道路問題は都市を中心とするものではなく、廣域なる地帯の發展を目標とする道路を考へなければならなくなるのではなからうか。今や都市内人口の地方への分散とか、工業地帯の密集を避けて地方に散在せしむるとかのことが問題化しつゝあり、之等を通して今日までの都市が依然として舊態を存続することがなくなり、何等かの型に於て變革し、即ち都市集中の型態が分散的となり都市の様相が變り都市の重要性が比較的微溫化するのではなからうか。從て道路問題も都市中心を離れて國防線上の道路とか、工業地帯連絡の道路とか、都市人口分散の道路とか、農山林漁業の開發の道路とか、國際交通道路とか、共榮圈建設上の道路とか等の廣地域の開發、發展を目標とする道路等が重點的に置き換へられてくると思ふ。

この點に於て古くはローマン・ロード、近くはソ聯邦の産業自動車道路、獨逸のヒットラー自動車道路等の如きは我國の廣域に亙る道路建設の上に又更に大東亞共榮圈建設上の道路問題の上に何等かの意味と方向とを示すものやうに思はれる。